

## ○通りがかりに

冬の陽の暖かに照るある日の午後、神田の電車の交叉點から一寸はいった裏道を急いで通りぬけようと思つた。そのせまい横道、電車と車から見すてられたこの細道で、四つ許りの男の兒が、尻をあげて居ました。あげるのか引摺るのかわからないほどに、尻は背中におんぶされて行くのでした。そのうちに、どうした拍子か尻が背からはなれて地上を二三尺のぼりました尻をかついだこの子は一足かけるごとに、ふりかへつてゐましたがこの時、ニコツと笑つて、五六歩走りました。その途端、向ふから急ぎ足に來た何處かのをぢさんが、すれちがつて、アツ！と思ふ間に、外套の端に尻を引っかけ、氣がついて「えい、うるさい」とばかり之をふりはらつて過ぎ去りました。尻の絲はきれました。龍の胴は傷つきました。私はこの時、この子がどうするかと眼を見張りました。ワアツと泣くだらう？或はをちさんひどい！とどなるだらう？かう思つてゐるその瞬間、うしろむいてかけて居たこの子は、すぐむきなほつて、尻の成り行きを見て、アラ！といひました。しかし顔はかッやいてゐました。につこり笑つてゐました。「また駄目になつちやつた」。力づよくかういつて、尻を拾ひあげました。切れた絲を兩方の手で子供らしくかさねてゐました、ぢれも泣きもしないで、「今度、僕うまくやる。天まであげてやるよ！」と尻に話しました。私は、この時、ほんの通りがかりに、何處の子ともしらないこの子がよく育つてゐると思はずにはゐられませんでした。何といふ力づよさでせう。この子はきつと轉んでも、おどし泣きをしないで、人の助けを待たないで、さつさと起き上る子です。へこんだゴム毬がそのまゝ轉つてゐるのでなしに、いつも打てばはづむ毬です。やりそこなつても、つぶやかずに、またやりなほす子です。自分の小さい足をふみしめて、自分の力であゆむ子です。服装などを見た所では家庭も手不足で、あまりかまはれない境遇かと思はれましたが、それがかへつて、小さいながらの獨立心を養つてゐるのでせう。その獨立心も、意地をはるといふ厭味がなく、内にみちる元氣が、この子を、につこり笑はせて、「今度ほうまくやるよ」といふ望みをおこさせます。張りのある子は氣持のよいものですね。(十・一・二九)